

(1) 事業名称等

- 【事業名称】 豊岡市出石伝統的建造物群保存地区 出石伝統的町家外観詳細図集の作成
【実施団体】 出石まちなみ設計士会
【事業経費】 1,435,000 円
【事業領域】 文化財建造物修理に関わる技術の普及

(2) 事業の目的

「文化財建造物の維持のための修理設計技術や修理施工技術の普及」

1. 伝統的町家の外観の調査・図化の作業を通して技術者としての知識向上を図る。
2. 図集としてまとめ、修復工事の手引き及び技術の普及・継承に役立てる。

(3) 事業活動の目的

1. 伝統的町家デザイン研修会の開催

「一般市民と共に出石町家の意匠構成の勉強及び伝建修理の工法の検証」

日 時 7 月 21 日 (土) 場 所 弘道地区公民館

・ 講 演 会

「町並みを形成している出石の特徴」

講 師 国立明石工業専門学校教授 八木雅夫氏

・ 伝建修理事例発表討論会

23 年度修理事例の担当設計者及び建設業者による修理方法の発表、その方法について皆で批評し良い方法を検討する。

2. 町家実測調査及び図面作成

- ・ 事前に調査方法と作図のルールを決め、調査物件の選定を実施。
- ・ 会員 2 3 名が 1 班 3 人の 7 班に別れ、1 班が約 3 物件を担当し 2 3 物件の実測調査を実施
一斉調査 7 月 28 日 (土) 補足調査は各班で適宜
- ・ 各班の調査物件を各班の中で内容検討しながら図面をまとめる。

3. 図集の作成

第 1 回 図面のまとめ及び資料作成後中間報告会・ワークショップの開催

日 時 9 月 15 日 (土) 場 所 宵田会館

当会会員 20 名 + 大工・左官・建具職人など 12 名

第 2 回 図面のまとめ及び編集検討会

日 時 10 月 12 日 (金) 場 所 弘道地区公民館

当会会員 18 名 + 推進指導員 4 名の現地指導

編集委員会の開催

11月30日、12月25日、1月26日の3回 事務局にて

4. 図集発刊記念 出石・町家フォーラムの開催

「町家デザインの美しさを未来に伝えたい」

日時 3月10日（日）

場所 福住地区交流センター

・講演会

「出石城下町の町家と町並み」

講師 京都市立大学大学院教授

大場 修 氏

・パネルディスカッション

「町家の美しさをどのように未来に伝えるか」

パネラー 大場氏・一般市民・大工棟梁

・ 当会役員の4人

コーディネーター 兵庫県教育委員会文化財課課長

村上裕道氏



(4) 事業の成果

1. 伝統的町家デザイン研修会

- ・ 一般市民・町なみ保存会役員・建築業者（工務店・大工・左官・建具職人）など51名の参加
- ・ 出石伝建地区と他の伝建地区との違い並びに出石町家のデザインの特徴を改めて多くの参加者と共有認識することができた。
- ・ 伝建指定を受ける以前の景観形成の補助金で行なったそれらしい修理や建替え工事の認識が、伝建地区では結果的に障害になることが判った。
- ・ 出石本来のデザインも判らずに、安易なデザインで修理してはならないことが、職人や有識者の指摘により認識できた。

2・3. 町家実測調査及び図面作成及び図集の作成

- ・ 調査・図化の作業を通して、町家の意匠構成を自分のものとして学習することができ、技術者としての知識向上が図れた。
- ・ 会員同士が協力し合い調査し、統一した表現で図集にするため、仕上げた図面を批評し合い、また現地調査するということの繰り返しで、見る力・表現する力が団体として向上した。

4. 出石・町家フォーラムの開催

- ・ 参加者 一般市民・町なみ保存会・建築関係者など100～150名を予定。

- ・ 図集の意義と発刊を広く PR する。
- ・ 出石の町家の魅力と未来への技術の伝承を発信する。

(5) 事業実施後の課題

1. 今回の調査で目に付き図集に取り上げられなかった特徴ある町家のデザインを今後どうするか。
2. 今回学んだ本物の出石のデザインに対し、景観形成の補助金で行って来たそれらしい工事と人々の認識をどうして変えていくか。



(6) 今後の展開

1. 職人など専門的な建築従事者を対象に講演会・研修会を開催し、私達の今回の成果を広め、出石伝建地区の整備に寄与していく。
2. 継続的に修理工事の見学会を開催し、感想や批評をもらい、職人の伝統技能の保存と発展に努める。
3. 市民に広くデザイン集を知ってもらい、施主自らが我が家の修理はこの様にできないかと言えるように啓発していきたい。
4. 出石伝建地区は明治9年に町の大半が焼失する大火を経験している。にもかかわらず、漆喰で塗り込められた重厚な町家は少なく、繊細な格子戸付きの狭い間口の町家が大半で、常に火災の危機にさらされている。デザインの話しと共に、防災の重要性も啓発し仕掛けを考え実践していく。



(7) その他

1. 今回図化した23物件の内8物件が空き家、その中でも3物件が放置されて倒壊の危機さえ感じられた。そんな町家を図面として記録保存ができたことは大きな成果と考える。

2. 伝建地区内は空き家が目立ちますます増える傾向にある。手放し状態の空き家は先ず屋根が傷み、その次に軸組が腐食し崩壊へと進む。よって空き家は屋根の維持が一番大切で、修理工事とは別に環境整備とか称して、簡単な維持修理を NPO 等が手掛けられる制度があれば良い。